

明野小学校学校だより

あけの

伊勢市立明野小学校

令和3年10月8日

発行人 岡村 昭

全国学力・学習状況調査の結果より

4月に実施された全国学力・学習状況調査の結果が、8月に公表されました。調査の目的は、児童の学力や学習状況、課題を把握するとともに、それらを踏まえて調査対象学年及び他の学年の児童への学習指導の改善・充実等に取り組む際に役立てることにあります。本校では、今回の結果をもとに、全国との比較をしながら分析を行いましたので、その概要をお知らせします。尚、結果については学年全体としての課題と個人の課題があります。個人の課題については、学校でも個に応じた指導の工夫に努めますが、前期の終業式の日には個人の結果を渡しますので、家庭学習の参考にさせていただけたら幸いです。

◇◆◇学力調査より◇◆◇

国語・算数の2教科において、学力調査が行われました。本校の6年生は、全体の平均正答率で見ると、どちらの教科も全国平均・県平均に及びませんでした。しかし、問題別にみると、80%以上、90%以上の正答率を上げた問題、全国平均を正答率で10ポイント上回る問題もありました。これは、日々の学習に一生懸命取り組んでいることが、少しずつ成果としてあらわれているものだと思います。

結果について、もう少し詳しく説明したいと思います。

【成果がみられた問題～国語～】

○ 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題。

※「積む」の書き取りが約12ポイント、「原因」の書き取りが約7ポイント、正答率で全国平均を上回りました。毎日、こつこつと漢字練習をしている成果が出た結果と言えます。

○ 文の中における修飾と被修飾との関係を捉えることができるかどうかをみる問題。

※「すぐに」という言葉が、動きを表す語句に係って文の意味を詳しくすることを捉える問題ですが、正答率が全国平均を約9ポイント上回りました。

【課題がみられた問題～国語～】

△ 目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付けることができるかどうかをみる問題。

※面ファスナーについて文章や図で説明されている資料を読んで、発明者のメスラルが何をヒントに、どのような仕組みの面ファスナーを作り出したかを、50字以上80字以内にまとめて書く問題です（裏面資料①参照）。正答率は22%でした。全国平均より正答率が約12ポイント下回りました。「何をヒントに」の部分は書けていますが、「どのような仕組みの面ファスナーを作り出したか」が書けていない誤答が40%以上ありました。書き手がどのような事実を理由や事例として挙げているのかに着目して文章全体の構成を捉え、必要な情報を見付けるために文章と図を結び付けて読むことが求められます。

△ 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができるかどうかをみる問題。

※面ファスナーが国際宇宙ステーションでどのように使われているかについて、面ファスナーの良さを取り上げ、国際宇宙ステーションの中での使われ方について、50字以上80字以内にまとめて書く問題です（裏面資料①参照）。正答率は約17%で、全国平均より正答率が約12ポイント下回りました。「国際宇宙ステーションでの使われ方」については書けていますが、「面ファスナーの良さ」について書けていない誤答が45%以上ありました。問いの条件に合わせ、目的に応じて中心となる語や文を見付けて要約することが求められます。



【成果がみられた問題～算数～】

○ 速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察することができるかどうかをみる問題や速さと道のりを基に、時間を求める式に表すことができるかどうかをみる問題。

※「500mを7分間で歩く速さで歩くと、1000mを歩くのに何分かかるか。」「分速540mで走るバスが、2700mを進むのに何分かかるか。」という問題で、どちらも80%を超える正答率でした。日常生活の問題を解決するために、示された場面を解釈し、必要な数量やその関係を捉え、数学的に処理することができる力がある程度身につけてきていると言えます。

○ 棒グラフから、数量を読み取ることができるかどうかをみる問題。

※9月の図書の貸し出し冊数を表した棒グラフから、6年生の貸し出し冊数を答える問題です。正答率は、90%を超えていました。縦軸の最小目盛りが50冊であることを捉えて読み取ることが良くできていました。

【課題がみられた問題～算数～】

△ 三角形の面積の求め方について理解しているかどうかをみる問題。

※右のような三角形の面積を求める問題ですが、正答率は約40パーセントでした。公式を思い出せず3辺の長さをかけて答えていた誤答が30%を超えていました。また、公式を使って計算しようとしても、底辺と高さを正確に捉えられなかったり、÷2を忘れていたりして、公式を適切に用いていない誤答もありました。基本図形の面積の求め方について、もう一度復習をする必要があります。

△ 複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方捉えて、面積の求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題。

※右のような平行四辺形の面積を求める問題で、正答率は約35%でした。求める平行四辺形の高さを図に示された数値から求める式や言葉が無かったり、高さのとらえ方が間違っていたりする誤答が相当数ありました。図から求める平行四辺形の面積は、問題にある三角形の4つ分ですが、問題には「高さをどのように求めたか」を式や言葉で説明するように書かれているので、問いの条件に合わせた書き方をする必要があります。

△ 小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題。

※30mを1としたときに、12mが0.4にあたるわけを、問題文の例と同じようにして、0.1にあたる長さわかるようにして、言葉や数を使って書く問題で、正答率は約37%でした。0.1にあたる長さが3mであることは書いても、12mは3mの4つ分になることが書けていない誤答が相当数ありました。除法と小数を用いた倍について問題の意味を理解し、この問題でも、問いの条件に合わせた書き方をする必要があります。

◇国語、算数ともに、目的に応じて必要な情報をあつめ、表現していく力をつけていかななくてはなりません。日々の授業の振り返りで、字数を指定して書く、内容のキーワードを設定してその言葉を使って書く等の取り組みを進める必要があります。また、タブレットを活用しながら、自分の考えを説明し合うことを日常的に行うことも表現力を向上させるのに効果があると考えるので、そういった学習を積み重ねていきたいと思えます。

図1のような直角三角形があります。

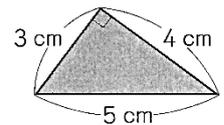
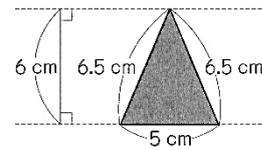


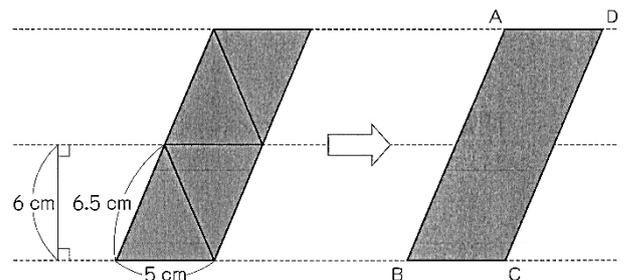
図1

(1) 図1の直角三角形の面積は何cm²ですか。求める式と答えを書きましょう。

(3) 次のような二等辺三角形があります。



上の二等辺三角形を4つ使い、次のように、同じ長さの辺どうしを合わせて、平行四辺形ABCDをつくりました。



平行四辺形の面積の公式を使って、平行四辺形ABCDの面積を求めます。

辺BCを底辺としたときの面積の求め方を、式や言葉を使って書きましょう。そのとき、平行四辺形ABCDの高さをどのように求めたのがわかるようにしましょう。

また、平行四辺形ABCDの面積が何cm²になるのかも書きましょう。

◇◆◇児童質問紙より◆◆◇

児童質問紙は、児童の学習に対する関心・意欲や生活習慣、学習習慣について問うものです。本校の教科指導や学校経営が、児童の学力向上に有効に働いているかどうかについて、学力調査とともに、その結果から考察していく必要があります。

全国平均よりも良好な結果であったもの（肯定的回答とは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計のことです。）

○ 難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦している。（肯定的回答が全国平均より+7.3ポイント）

※自分の目標に向けて、チャレンジしている子がたくさんいるということですね。

○ 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。（肯定的回答が全国平均より+13.1ポイント）

※総合的な学習の時間等で、地域の皆さんから色々と教えていただいている中で、新しい気付きがあり、そのことについて考えている学習ができていているということだと思います。

○ 5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器を使用している。（肯定的回答が全国平均より+34.5ポイント）

○ 学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために使用している。（肯定的回答が全国平均より+18.3ポイント）

※6年生は、5年生の時から一人一台のタブレットを使い、各教科で活用してきましたので、全国に比べても高いポイントとなっています。

○ 学級で、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている。（「当てはまる」が全国平均より+14ポイント）

○ 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。（「当てはまる」が全国平均より+17.9ポイント）

※普段から自分たちの課題に向き合い、みんなで考えながら解決に向けて努力していることか分かります。

○ 国語の授業で、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしている。（肯定的回答が全国平均より+5.3ポイント）

全国平均と比較して課題がみとめられたもの

△ 学校に行くのは楽しいと思う。（肯定的回答が全国平均より-5.2ポイント）

※コロナ禍のなか、なかなか通常の学校生活ができないこともあり、「やりたい」「たのしみたい」という学習や活動に制限がかかっていることも原因の一つかな…と思いますが、そんな中でも少しでも達成感が感じられるような指導・支援を行っていきたいと思います。

△ 学校の授業時間以外に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をするか。（「平日30分未満」が全国平均より+3.2ポイント、「土日全くしない」が全国平均より+3.4ポイント）

※宿題以外の自由勉強として、10分×学年の数くらいは家庭学習にとりこんでほしいと思います。一人一台のタブレットでドリルパークを使い、各学年の基礎学力を確かなものにしていきたいです。

△ 今回の国語の問題で、解答を文章で書く問題についてどのように解答したか。（「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」が全国平均より-8.7ポイント）

△ 今回の算数の問題で、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題についてどのように解答したか。（「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」が全国平均より-9ポイント）

※今回の問題の解答時間を「足りた」と答えた子が相当数いる中、問いの条件にあわせて書こうとしても、目的に応じた内容を書けない実態が認められます。日常的に、分かったことを人に説明したりノートに書き留めたりする学習を進めていく必要があります。

今回お知らせした内容は、5/27に行われた調査の結果を分析し、その成果と課題について主なものを紹介したものです。学校では、結果に一喜一憂するのではなく、現在行っている取り組みを粘り強く継続しながら、「強み」はさらに伸ばし、「弱み」を一つでも解消していきたくと考えています。明野小学校の児童がよい生活習慣や学習習慣を身につけ、さらに学力が向上するよう、保護者の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



